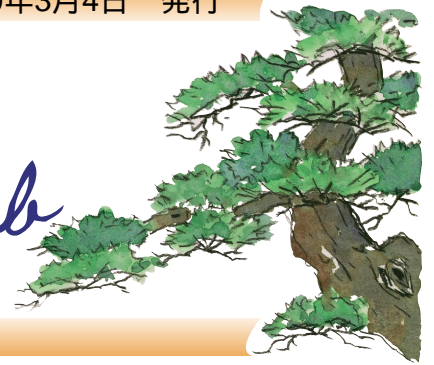




高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



卓話 人生についての教訓

西田光衛 会員

卓話をさせていただきますが、本当に話し聞かす方法は、相手を正座させて聞かすこと。椅子に座って聞いた話はすぐ忘れるし、たとえ約束しても守れない。相手を説得さず場合は、自分も座り、相手も座らせ話すことです。今日は別ですが.....

版画『苦しいのは生きている証拠』の説明。仏教は入れた時から「苦」ははじまると説く。だから人生には苦はつきもの。

『苦』には四苦、即ち生苦、老苦、病苦、死苦の四つと愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦の四つ・これを世間で言う『四苦八苦』と言う。これから逃れる方法に六つある。その第一は『布施』梵語で『dāna』、日本語で『旦那』。布施は人に施すこと。布施には『財施』・これは金銭や物で皆さんからお寺へ。法施はお寺から皆さんへ。「無畏施」絶対者から皆さんへ。

そしてこの『布施』は清くなければならない。欲から離れることです。施す人もいばったり、報酬を求めたりしてはなりません。施された人もそれを重荷に思ってはなりません。そして、その施す物品は清いもの、人からぬすんできたものであってはいけません。これを『三輪清浄』と言います。

生きている限り、苦はあると思ってください。今日は時間がないのでこの位で終わります。

御布施はロータリーでは奉仕にあたります。





President

会長の時間

1905年2月23日は、ロータリーの創設者であるポール・ハリスが友人3人と共に、シカゴで初めて会合を開いた日でありまして、この2月23日がロータリーの創立記念日となっております。

ロータリーの創立記念日に当たって、当時の状況を再確認しておきたいと思えます。

当時のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていたようです。そこで青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に堪えかねて、友人3人と共に語らい、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、との思いからロータリー・クラブという会合を考えたと言われております。

昨年来、偽装問題が随分と世間を騒がせました。又、このところ先行きが不透明なこともあり、信用不安が心配されています。ロータリー創立当時と比較して、現在の方が商業道德は高まっていると言えるでしょうか。現在こそ、ロータリーの職業奉仕理念が求められているように思われます。

ところで、3月8日(日曜日)には、第2680地区の地区大会が開催されることとなっております。地区大会は、朋友との交流、感銘深い講演(今回は、「国家の品格」の著者である藤原正彦氏の講演)、地区内クラブやR.I.全般に関する問題の討議によって、ロータリーのプログラムを推進することを目的として開催されます。当クラブからの出席予定は21名となっておりますが、宮本ガバナーから60%の会員には是非出席して欲しい旨、電話での要請を受けております。欠席予定となっている方も、予定変更できるものなら出席して頂きますようよろしくお願い致します。



プログラム予定

3月4日(水)	3月11日(水)	3月18日(水)	3月25日(水)
卓話 辻田重恵 会員	高砂R.C.との合同例会 PM12:30~ 講師 河野仁美氏 於:高砂神社会館 【プログラム委員会担当】	職場例会 PM12:30~ 於:電源開発(株) 高砂火力発電所 【職業奉仕委員会担当】	卓話 佐野栄作 会員



Donation **ニコニコ報告**

西田 光衛

卓話させていただきます。

**志方 正昭・岡本 崇司・井野 隆弘
嶋谷 拓雄・大橋 卓司**

西田先生，卓話楽しみにしております。

廣瀬 明正

アートサロン内垣様をお迎えして。安い作品
をお願いします。

増田耕太郎・柿木 國夫・岩崎 勇人

花を飾りましょう。

藤本 明久

西田住職の卓話，楽しみにしていましたが仕
事の都合上，早退いたします。また聞かせて
下さい。

伊藤 勝之・庄司 武

早退しますので。

アートサロン内垣

いつもお世話になります。青松R.C.の皆様には
すばらしい作品を格安にて販売しています。
ぜひお求め下さい。



Secretary **幹事報告**

第27回 通算1391回

1. 回覧その他

3月11日，3月18日，出欠について
地区大会の件



Neighbor-club information **近隣クラブINFORMATION**

クラブ名	変更内容	日時・場所
明石北ロータリークラブ	休会(定款第6条第1節cによる)	3/24(火)
明石ロータリークラブ	春季親睦例会のため	4/1(水)
〃	休会(定款第6条第1節cによる)	4/8(水)
姫路ロータリークラブ	休会(定款第6条第1節cによる)	3/10(火)
姫路南ロータリークラブ	移動例会	3/9(月) 於:姫路医師会館
高砂ロータリークラブ	高砂青松ロータリークラブとの合同例会	3/13(金) 3/11(水)
〃	休会(祝日のため)	3/20(金)

例会記録 2009. 2. 25 (水) 通算1469回

ソング	「奉仕の理想」
四つのテスト	国際奉仕委員会 藤本副委員長
出席報告	2月4日 会員数 52名 欠席者 0名 出席率 100% <修正による> (この内出席免除者10名)
	2月25日 会員数 52名 欠席者 12名 出席率 76.92% (この内出席免除者10名)

播磨ゆかりの偉人伝 ②8

酒井 抱一 (さかい・ほういつ) 「江戸琳派」を確立した画家

本名は忠因 (ただなお)。宝暦11 (1761) 年、姫路藩主家15代・酒井忠恭 (ただずみ) の跡継ぎ、忠仰 (ただもち) の二男として江戸神田小川町の酒井家別邸で生まれた。7歳上の兄・忠以 (ただぎね) は、その後姫路藩主となっている。

多趣味だった兄の影響を受けて、抱一は幼いころから武術以外にも俳諧や仕舞を習い、青年になると能楽、書画、茶、狂歌、浮世絵などさまざまな文化と親しんだ。なかでも大きな関心を寄せたのは書画。天明5 (1785) 年、25歳のころには歌川豊春流の浮世絵を描いて優れた才能をのぞかせている。

寛政2 (1790) 年、姫路藩主の兄の死で、抱一は武家社会を逃れ独自の道を歩むことになる。もともと自由な文化人肌の気風を持っていただけに武士として生きることは性に合わなかったのかもしれない。

事実、その生き方は自由奔放だった。狂言師の太田南畝、儒学者の亀田鵬斎、歌舞伎俳優の市川団十郎ら多くの文化人と交友を重ねた。さらに吉原の遊女の身請けもしていたというから気ままな生活を楽しんでいたことが容易に察しられるではないか。

出家剃髪し仏門入りしたのは寛政9 (1797) 年、抱一37歳の時である。西本願寺の文如上人が江戸を訪れたのがきっかけとなった。画家として本格的に活動を始めたのはそれからである。

強い影響を受けたのは尾形光琳。元々酒井家の先祖は光琳のパトロンでもあったといわれ、幼少期から身近にその作品に接していた。抱一は自ら光琳の百回忌法要を営み、また「光琳百図」を刊行するなど光琳作品の復興に尽力した。

その後、自ら「江戸琳派」を起し数々の傑作を残した。代表作には「夏秋草図屏風」、 「月に秋草図屏風」、 「十二ヶ月花鳥図」などがある。播磨を題材にしたものとして「播州室明神棹歌遊女行列図」が有名だ。昭和58 (1983) 年には、姫路市立美術館で、開館記念として「酒井抱一展」が開催されている。

(主な参考文献=神戸新聞社・編「播磨ゆかりの50人」神戸新聞総合出版センター)



会長 鹿間行雄 幹事 岡本崇司 クラブ会報委員長 菊地敬子

例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室 (2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (079) 443-0500(代)